

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-701
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net

【関西支部】〒665-0061 兵庫県宝塚市仁川北3-10-27 中野方

【カンボジア事務所】Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu, Kingdom of Cambodia
電話:(855) 12-519-114 (855) 12-946-483

【ホームページ】 AAC21

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう



アンコールワット

発行日 2012年(平成24年)7月1日

第65号

(年6回発行) (奇数月)

以上の投資実績が期待される。五月、カンボジアの首都プノンペン郊外にある経済特区へ行ってみた。二年前に訪れた時は更地だったが、日系企業では味の素の工場が操業していた。ヤマハも近々工場を建設するようだ。ついでにシハヌーク

日系企業のカンボジア投資が加速

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

創出が貧困を削減する結果となり、大きな国際貢献につながる。また、日本側とすれば、円高や東日本大震災などにより、日本の国内企業が海外に活路を見出す必要に迫られている事情も否定できない。いずれにせよ、これからは国境を

カンボジアへの日系企業の投資が加速している。カンボジアへの外国投資の窓口となるカンボジア開発評議会(CDC)によれば、昨年の日系企業の投資は十九件で、一昨年の六件を大きく上回った。今年さらには活発で、昨年

ビルで建設中の日本の工業団地へ行ってみたら、造成がほぼ終了、進出第一号として、王子製紙グループの現地法人が段ボール製造工場の建設を決めた。日系企業の進出は、カンボジア経済の発展に寄与するばかりか雇用の

根拠のない投資話が行き交う中、国民センターが注目を喚起した。特に、最近ユネスコ世界自然遺産に登録されたカンボジア唯一のリゾート地「シハヌークビル」の不動産の権利を買い取ることができるという、その後仲介業者



プノンペン郊外の経済特区で操業を始めた「味の素」の工場

越えた企業活動がさらに活発になり、投資ブームに押されてカンボジアを訪れる日本人が急増するものと思われる。反面、過度な投資ブームに便乗し、

と連絡が取れなくなったケースが多くあるようだ。カンボジアと日本の文化交流も盛んになってきた。二月十六日(十九日)、「日本カンボジア絆フェスティバル2012」がプノンペンの「カンボジア・日本人材開発センター」(CJCC)で開かれ、武道や映画など日本の文化が紹介された。カンボジア人や在留邦人、四千五百人が会場を訪れ、交流をはかった。

カンボジアは日本と同じ仏教の国。人々の考え方や社会構造も似通っていて双方親しみ易い国民性を持つ。両国とも、戦争・内戦といった暗い過去を持つが、これからは平和を愛し、明るく前向きにお付き合いしていきたいものである。



新校舎の前で生徒らと記念撮影



あいさつする加藤義雄会長

開校式には、日本から加藤義雄会長を始めとする同協会のメンバー十二人が、本会から根岸恒次理事長と中野勝理事が出席した。また、カンボジア政府を代表して、内務省経理局長兼首相顧問、シアン・ブンレアン氏夫妻を始めとする多くの要職者が出席した。地元の村からは、住民や生徒ら約千人が出席し、開校を祝った。

今日から新しい校舎でお勉強

神戸ユネスコ協会(神戸市中央区楠町・加藤義雄会長)の資金協力により、昨年十一月に着工した小学校の校舎(コンポンチュナン県ロミアス村・ストックアイトロミヤ小学校・生徒数約二百人)がこのほど完成、五月十四日、同小学校校庭で開校式が盛大に行なわれた。

神戸ユネスコ協会がカンボジアに校舎を贈る



倒壊する危険性のある木造校舎で勉強していた

開校式で登壇した加藤義雄会長は「皆さんにお願いがふたつあります。ひとつは、この校舎の建設にたくさんの方が協力してくださったことです。ふたつめは地域の方々にも協力していただいたことです。どうかこの新しい校舎で楽しく、みんな仲良く、両親のため、地域のため、国のため、



日本大使館を表敬訪問(下左より2人目が樋口公使)

新校舎が完成する前、同小学校では木造校舎が狭いため、五年生と六年生(七十人)は別の村にある小学校へ通っていたが、新校舎が完成し、一年生と六年生の全員がここで学べるようになった。同校舎が完成する前、同小学校では木造校舎が狭いため、五年生と六年生(七十人)は別の村にある小学校へ通っていたが、新校舎が完成し、一年生と六年生の全員がここで学べるようになった。

めになれるような心優しい子、勉強に頑張る子になるように努力してほしいと思います。」とあいさつした。開校式終了後、シアン・ブンレアン氏夫妻が主宰して昼食会がコンポンチュナン県の庁舎で行なわれ、日本からの出席者全員が招待された。同十七日には、同協会全員がプノンペンにある「在カンボジア日本大使館」を表敬訪問、着任早々の樋口公使に校舎の完成を報告した。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



小学校で勉強する里子

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。思えば67年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。 ※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月2500円×12ヵ月)のどちらも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の用途】: 学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。

【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いに行くための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金(税金)は一切いただいておりません。

クメール教育里親基金活動レポート

「クメール教育里親基金」では、五月末日現在、三百七十三人のカンボジアの子どもたちを教育支援している。

昨年、里親からの教育支援を受けて高等学校を卒業した女の子の家を訪問した。今も、里親からの生活支援を受けながら、小学校の教師をめざし、学習塾に通っている。教師になるための試験が今年の暮れにあるそうで、自宅でも勉強中心の生活を送っていた。



教師をめざして勉強中の里子

この女の子は、二〇〇四年から日本の里親から支援を受けている。その間に両親を病気で亡くし、今は伯母さんの家で暮らす。今年の暮れの試験に合格し、晴れて教師になれるよう、激励して家をとにした。

里子家庭訪問記録

名前: スム・コイ	学校名: ソムプール小学校
年齢: 8歳	学年: 小学校の1年生
性別: 男の子	
住んでいる場所: コンボンスプー県 チャパーモン郡、チャパーモンコミュニティ、ソムプール村	
学校までの所要時間: 徒歩で15分	
好きな教科: 国語(特にアルファベットを書くのが好きです。)	
苦手な教科: 算数(特に足し算を解くのが苦手です。)	
担任から一言: 成績:A 道徳:A 健康:A 学校活動:A 出席:A	
家庭状況: 現在、両親を亡くし、祖父母と暮らし、兄1人、スム・コイ君は第2子です。	

一日の過ごし方: 朝5時半に起床。顔を洗って、水を浴びてから朝食をして学校に通っています。授業が終わってから家に帰って来て、昼食をしています。午後、学習塾へ行きます。夕食は6時ごろに食べ、水を浴びてから、学校で勉強した事を復習して、8時頃に寝ます。

好きな遊び: プランコに乗るのが好きです。

好きな食べ物: 野菜炒め

将来の夢: 軍人になりたいです。



教室で勉強している写真

備考: 現在、スム・コイ君は両親を亡くしてから、祖母と祖父と暮らしています。祖母と祖父はお米を作ります。この仕事以外に、祖母は市場で他人の料理の手伝いをする人として働いています。毎月里親さんから頂いている支援金で、学用品や洋服を買って、一部のお金はお米を買うそうです。スム・コイ君は学校の授業では、よく先生の説明を聞いて、休み時間には、友達とプランコに乗って遊ぶのが好きだと言いました。「里親さんは孫を里子として選んでいただいて喜んで、里親さんのおかげで、スム・コイ君が学校に行けます」と祖母は言っていました。

2012年5月17日
担当者: サート・スリン

「カンボジアの子ども達に夢と希望を贈る市民の会」が発足



発足式に集まった会員の皆さん(下列右から2人目が藤田財務副大臣)

四月十四日、「カンボジアの子ども達に夢と希望を贈る市民の会」の総会兼発足式が「日立市教育プラザ」で開催された。カンボジアの子ども達に夢と希望を贈ると共に、子ども達同士がスポーツを通じ、仲間意識を育み、心身の育成をはかり、強調精神を養い、日本とカンボジアの中核となる青少年を育てることを目的とし、日立市民を中心に発足した。会長には、本会会員の田尻耕造さん、会長代理に本会会員の菊池和雄さんが選ばれた。発足式には、カンボジアに造詣が深い藤田幸久財務副大臣が来賓として出席し、お祝いの言葉をくださった。また、本会から根岸理事長が出席、本会と連携して活動を推進していきたいと挨拶した。同会はすでにカンボジアで二度にわたるサッカー大会を開き、今年の十一月には三度目のサッカー大会を計画している。



会場に展示した篆刻作品とカンボジアの写真

石川桂さんが篆刻作品展開催

今年の三月、カンボジアの小学校に校舎を寄贈した石川桂さん(愛知県安城市・理事、里親会員)が今年も「篆刻作品展」を開催した。

五月九日(十四日、愛知県知立市の画廊「じんがら」で開催、会場には「カンボジアの人とくらし」コーナーを設け、写真、会報、募金箱などを並べた。また、三月に撮影したDVDを放映するなど、会の広報活動に一役買った。多くの皆さまがご協力、募金に応じてくださり、感謝している。

石川桂さんがロータリークラブで講演

五月九日、石川桂さん(愛知県安城市・理事、里親会員)が三河安城ロータリークラブの例会で「ボランティア活動—カンボジアの人とくらし—支援活動について」と題して講演した。講演後、役員や会員の方々と懇談した。

ロータリークラブの会員の中には、石川さんの知人や教え子(石川さんは長年教師をしていた)が多く、協力を申し出る方もいて有意義なひとときだった。



講演する石川桂さん

10人の会員さんが東久邇宮記念賞(ボランティア部門)受賞



授与式に出席した皆さん

発明、音楽、芸術、ボランティアなどの分野で功績のあった人を顕彰する平成二十四年度「東久邇宮記念賞」の授与式及び祝賀パーティーが四月十八日、「京王プラザホテル」(東京都新宿区)で行われた。ボランティア(国際協力)の部門で、十人の本会会員さんが受賞の栄誉に輝いた。受賞した皆さんは、主として本会を通じて、カンボジアへの支援活動、また、それぞれの地域社会で実践されたボランティア活動が高く評価され、受賞に至った。

授賞式には六人が出席、欠席された方には後日、賞状を郵送した。

◎受賞者のお名前(敬称略させていただきます) 上山陽子(奈良県、大嶽正泰(静岡県)、白石恵子(栃木県)、木村ふよ(横浜市)、辻義輝(熊本県)、中田恵美子(青森県)、小深静香(大阪府)、花岡トクコ(長野県)、青山悦子(富山県)、石原信子(熊本県)

第七回「鑄造によるアクセサリー作り技術講習会」(夢ホーム)



新しい生徒が4人加わった

日本宝飾クラフト学院(本校=東京都台東区)の選任講師を務め、自宅にも工房を持つ榎戸徹彦さん(横浜市・里親会員)が、夢ホームに工房を作り、カンボジアの女性や若者の自立を目標に、鑄造によるアクセサリー作りの技術を指導している。

五月二十八日(六月二日)、第七回目の講習会を開催した。昨年五月にスタートした講習会も二年目となり、今回より新たに四名の生徒が加わった。

今回の講習会ではアクセサリーを販売するための額を入れる箱作りと、新しく加わった生徒には、基本のペンダント作りを指導した。

七月、カンボジアふれあいの旅の参加者が夢ホームを訪ねる時までに販売できるように、準備している。

次回の講習会は、七月九日(十三日)を予定している。

写真展「アジアの子どもたち」に出展



五月二十五日(二十七日)、「かながわ県民センター展示場」(横浜市)に於いて写真展「アジアの子どもたち」が開催され、本会も参加し沢山の写真を展示した。全日本写真連盟会員の写真家、遠藤啓さん(伊豆の国市・会員)がカンボジアで撮りためた写真七十点、ほかに、会の活動を紹介するパネルや資料も数多く展示し、来場者に理解と協力をお願いした。

本会のほか、日本雲南聯誼協会、レインボー国際協会、日本スリランカ国際文化社会開発協会が参加、三日間に四百人以上が来場してくれた。

投稿 素敵なお父さん 今 紀子

大学生N君の里子がかわいい女の子ちゃん。初めて訪問した時は、チーちゃんとおばあちゃんと二人だけでした。お母さんは町に働きに行き留守でした。お母さんの趣味の欄に「なわとび」と書いたチーちゃんのために、N君はなわとびを持っていきなりました。小さなチーちゃんのために、なわとびの長さを調節してあげていました。背の高いN君とちーちゃんなチーちゃんが並んで、なわとびをしているのを見て心がほんわか温かくなってきました。

二度目の訪問の時は、三人姉妹が待っていてくれました。お母さんも町から帰って来ました。チーちゃんの家は高床式です。今にも壊れそうな階段をギシギシ昇っていくと、三人姉妹の両側にお母さんとおばあちゃんが座っていて、なんだかとても頼もしいお父さんのように見えました。N君は大きな地図を広げると、「ここが日本で、ここがカンボジア」と説明しました。もちろん通訳の人がいます。そして、子どもたちひとりずつにノートなど文具を手渡ししていました。さわやかな、とっても素敵な里子訪問だと思いました。(東京都・会員)



大学生のN君(左端)

投稿

「ふれあいの旅」に参加して

佐野和俊

今回の旅行は、私にとって本当に貴重で収穫の多い旅になりました。私が「ふれあいの旅」に参加しようと思った動機は、世界遺産の観光もあるし、スケッチ旅行のいい機会かなと思いい、誘われるまま軽い気持ちで申し込みました。

私の今までの旅行と言え、観光地をグルッと回って、おいしい物を食べて、家へ帰ってほっと一息というパターンでした。今までの旅行との最大の違いは、タイトル通り「ふれあいの旅」でした。現地の人とナマでふれあひ、その生活を間近で見聞した事で、日本以外の生活を知ることができた貴重な体験でした。

カンボジアのニュース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

元ジャンボ機パイロット、カンボジアで講演

元ジャンボ機パイロットの丸山巖さん（七十七歳）がカンボジアを訪れ、カンボジア国軍のレスキュー消防隊員ら約三百人を前に講演した。

丸山さんは、パイロット歴約四十年。「ジャンボ機はどれくらい燃料を積みますか」という問い掛けから話を始め、二十万リットルの燃料と五百人近い乗客・乗員の命を預かるパイロットとしての任務の重さを説明した。

カンボジアの学生二十八人が日本に留学

日本の文部科学省は、二〇一二年の日本の留学生としてカンボジアの学生二十八人を選んだ。三月十六日に行なわれた壮行会には、黒川雅文駐カンボジア大使、元留學生らが出席した。

ンマンショーを演じてくれた子、食事の後片付けを手際よくこなしていく子供達の生き生きした姿を見て、子供達から豊かな心をプレゼントしてもらったような気がしました。

また、会員さんの里子の家庭訪問に行した時、炎天下でボール蹴りをして遊んだ男の子は、純真で無邪気で本当に可愛かった。

言葉は通じなくても心は充分通じたように思いました。日本は物質面ではとても豊かです。しかしそれが本当に良いことなのか？考えさせられる子供達との交流体験でした。

カンボジアを支援する会の人達の、子供達を純粋に支援されている姿を随所で見せてもらい、人の本当の豊かさについて考えさせてくれた旅でもありました。

人権党、アンコールワットを建設しようとしているインドを批判

ム・ソツカー氏を党首とする人権党は声明を発表し、「アンコールワットは世界遺産であり全人類が守るべき重宝を、ほかの国がそのもの遺跡や建造物を、ほかの国がそのもの遺跡や建造物以上の大きさで建設することを許可している国はない」とし、カンボジアにあるアンコールワットより大規模なアンコールワットの模倣建造物をインドに建設することは、何の問題もないとした情報相の声明に反発を示した。

情報大臣は、インドでカンボジアのアンコールワットよりも大きなアンコールワットの模倣建造物を建設する計画があるが、それはまだカンボジアに来たことのない世界の多くの人々にアンコールワットのことを知らしめ、将来カンボジアに本物のアンコールワットを見に来たいと思ってもらえる良いきっかけになり、誇るべきであるとした。これに対し人権党は、この解釈は言語道断だと反発している。

あることでした。

反面、目的地へ移動する途中の風景と、学校のある農村部や観光地で見かけた、ものすごいゴミの散乱、貧しい身なりで物乞いをする人、家というにはあまりにもひどい家屋など、車で一時間程度のところで、こんなにも差がある格差社会の現実を垣間み、カルチャーショックに陥ってしまいました。

しかし、カンボジアの素朴な生活をしてる人を見て、国が貧困でも「人」は貧しくないと思いました。子供達は自由奔放だし、若者が充滿している街中の活気がすごいです。この国の将来に希望を見ました。

短い期間でしたが、カンボジアの現状を自分の目で見る事ができ、多くの発見や学びが得られることができた今回の体験から、もっといろいろを知りたいと思います。そして自分はどう生きるか、もう少し考えたいと思いました。

私は今回の旅で出会った総ての人に感謝します。ありがとうございました。（愛知県安城市・会員）

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流してくださるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートしてくださる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割可）です。

会員として

・個人会員（年額一〇五〇円）
・法人会員（年額一〇二万円）
・里親会員（年額三万円）
会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。

21世紀のカンボジアを支援する会（口座番号）
001300-0160916
※銀行振込をご希望の方は事務局へ一報ください。
※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へ一報ください。

投稿

私の戦争体験



20歳の私です
佃井庸八

本会の副理事長、佃井庸八さんは御年九十歳、年に三回実施される「カンボジアふれあいの旅」に参加するなど、今もお現役で頑張っております。佃井さんから、戦争体験の原稿が届きましたので、しばらく連載いたします。国際協力の原稿ではありませんが、読者の皆様のお役に立てれば幸いです。

1

私は二十歳になり、徴兵検査を受け合格後、召集令状を受け、宇都宮東部第四十部隊に入隊しました。私は馬が好きでしたから、砲兵隊を希望しましたところ、叶いました。家業が農作業だったので、馬の取り扱いが抜群でした。

内務班に入り説明を受けたところ、砲兵隊には観測・通信・砲手・駆逐と四つの兵科があったので、私は通信を選びました。

主な内容は手旗信号、モールス譜号です。訓練は営庭で行なわれましたが、慣れてからは営外に出て訓練を受けました。

教官の教え方が上手だったので覚えも早く、終了後、私は通信係助手を命じられました。

朝は起床ラッパで起こされ、営庭に並び整列して点呼を受けます。それから室内で点呼、食事です。規則がとて厳しく、ボサツとしているとすぐビンタをくらいます。一人でも悪いことをすれば全体責任で並ばされ、革のスリッパで手加減なく殴られます。私的制裁は禁じられていたのですが、軍人精神を植え付けるためにはやむを得なかったようです。

いよいよ転属が発令されました。北と南に別れます。（つづく）
（群馬県桐生市・副理事長、里親会員）

事務局便り

■現地の事務所では、スタッフのメン・ソマリンが女の子を出産しました。三ヶ月ほど産休を取り、九月から復帰します。
■里親会員の鈴木春男さんが、カンボジアのシェムリアップでレストランとゲストハウスをオープンしました。特にレストランのメニューには、日本食もあり、早速、七月の「カンボジアふれあいの旅」の夕食で賞味することになりました。レストランの店名は「かぐや姫」です。
■第二十一回カンボジアふれあいの旅は、七月四日に出発致します。今回は珍しく十人足らずのメンバーですが、家族的な旅を楽しんでまいります。旅の安全をお祈りください。



- 会報「アンコールワット」七月・八月の予定
●第二十一回カンボジアふれあいの旅（七月四日～十日）
●四人の会員さんが夢ホーム滞在（七月六日～十五日）

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか？

「夢ホーム」で子ども達と楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な井戸の贈呈式・学用品配布・アンコールワット観光など
第22回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子ども達との交流をはかることができます。特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしております。併せて学用品配布などのボランティア活動にも参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。



「夢ホーム」の子ども達が皆様をお待ちしています

もちろんカンボジアといえば世界遺産の空庫、アンコールワット観光（オプションツアー）も予定に入れました。なお、募集は原則として本会会員を対象しておりますので、参加される方は、事前に会員登録（一〇五、〇〇〇円）が必要になります。

- 【旅行期間】平成24年11月7日（水）～13日（火）〈5泊7日〉
- 【募集定員】最少催行人員10名様（定員＝30名）
先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。
- 【滞在ホテル】ダイヤモンドホテル（プノンペン）5泊
- 【利用空港】成田空港および関西空港など
- 【旅行日程】7日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのプノンペン国際空港へ。
8日＝小学校を訪問、井戸贈呈式と学用品配布など
9日＝教育支援する里子の家を訪ね
10日＝自由行動（オプションでアンコールワット観光、サッカー大会あり）
11日＝夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
12日＝プノンペン市内観光後、夕方チェックアウト⇒プノンペン国際空港から帰国の途へ
13日＝早朝、成田・関西空港などに到着
- 【旅行代金】14万円～15万円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。＊日帰りアンコールワット観光25,000円（希望者のみ）＊傷害保険は各自でおかけください。

【締切日】平成24年9月10日（月）

お問い合わせ・申し込み

旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-701 TEL: 03-3991-2854
E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213